

「緊急開催！黒岩知事との対話の広場」

～かながわスマートエネルギー構想の実現に向けて～

平成23年11月12日（土）小田原会場

（知事）

こんにちは。神奈川県知事の黒岩祐治です。今日はようこそおいでいただきました。「対話の広場」、今日は、県民の皆さんと直接、いろいろなことについてお話をしたいと思っております。

この「対話の広場」というのは、県内いろいろなところを回っているんですけども、今日の「対話の広場」はエネルギーの問題に絞らせて頂きます。と言いますのも、皆さんご承知のとおり、私もこの神奈川県知事選挙に立候補するにあたって、エネルギー政策、太陽光発電を一気に普及させていくんだということを訴えてまいりました。そしてこの9月に新しい「かながわスマートエネルギー構想」というものを打ち出しました。これは、最初、公約で言ったことと今の新しい構想がどういうふうな関係になっているのかということについて、改めて皆様にきちっとご説明をしなければいけないなと思っておりますので、今日はどんな疑問にも私がお答えいたします。逃げも隠れもいたしません。今日、シナリオは何もありません。どなたでも参加できます。今日はショッピングに来られた方も、ちょっと聞いてみようかな、質問してみようかな、全部OKです。直接お答えいたしますから。今日はこのエネルギーについて皆様とともにしっかりと考えてみたいと思っている次第であります。

まず、私が選挙戦の最中にこのエネルギー政策をどうして掲げたのか、そのときはどんな言い方をしたのか、ということからお話をしたいと思います。

3月24日から知事選挙は始まりました。そのときはどんな状態だったかなと振り返ってみますと、3月11日の東日本大震災の直後でありました。当時はこんな時期に選挙なんかやっている場合か、というふうなことも言われたような時期でした。福島第一原子力発電所のあれだけの大きな事故があって、そして当時は計画停電が行われていました。皆さんも不自由されたんじゃないでしょうかね、計画停電。そんなときに始まった選挙戦でした。私は、この選挙が始まって、いろいろなところを回ってまいりました。驚きました。第一声に選んだのは鎌倉の地でした。鶴岡八幡宮で必勝祈願をし、そしてあそこの商店街を練り歩いて、鎌倉駅前で第一声。鎌倉駅前に立ってみたら、お客さんが全然いませんでした。商店街の中も誰もいませんでした。選挙戦で箱根に行きました。箱根湯本駅前、いつも人がいっぱいいますね。そこにもお客さんが全然いませんでした。話を聞いてみると、計画停電なんかやられると、そんな温泉でゆっくりするという気持ちにならない。あの頃はロマンスカーも止まっていたからね。外国人のお客さんも皆いなくなっちゃった。直接話を聞いていると、大変皆さん危機感を持ってらっしゃった。このままいくと箱根の旅館は夏までもたない、潰れてしまうと言っていました。そりゃそうでしょうね、お客さんが来ない状態が続けば温泉旅館は必ず潰れます。温泉旅館が潰れたら、しかも箱根というのは2千万人の観光客が来るというところですよ。そこの旅館がバタバタ潰れたら、どうなるか。そこに納入している業者、皆潰れるなと思いました。これは大変なことが今起きているのだと、私は恐ろしくなりました。東日本大震災が起きて、私は、東北地方が大変な事になった。だから、なんとかしてそれを我々は心をつなげて助けなきゃいけないと思っていました。ところが、実は神奈川県

自身も大変なんだということに気が付いたんです。神奈川が崩壊したらどうなるのか。そうすると今度は計画停電なんていうのを起こさせちゃダメだ。それは根本的な大問題だと思います。その頃はまだ、段々春になってくるときですから少しずつ暖かくなっている。でも、夏の冷房需要がすぐにやって来る。そのときにまだ計画停電をやるような状態だったら、これは大変だ。だから、早く新しいエネルギーを創っていかなくちゃいけない。

福島第一原発があんなことになって、どう見たってあの原子力発電所をすぐに動かすことはできるはずがない。ということは、計画停電という状態を起こした一番の元は、電力不足という状態は、ずっと続くんだと。これは大変だ。早く新しいエネルギーを創らなくちゃ。そのために一番早いのは何だ。これが、太陽光発電でありました。自分のお家の屋根にポンと1枚太陽光発電を付ければ、すぐに電気ができます。付けたお家は停電しないで済みます。これが一番早いです。原子力発電所が潰れちゃった。じゃあ新しいのを造ろうか、何年かかりますか。10年くらいかもしれない。そんな10年を待っている状況じゃないでしょう。そうしたら、ソーラーパネルをポンと付ければすぐできる。これを早く普及させるべきだと思った。

私はエネルギーの専門家ではありません。私は医療の問題について自分のライフワークだと思ってジャーナリスト時代からずっと取り組んできましたが、エネルギー問題の専門家じゃありませんでした。でも、これも不思議なものです。私は仲間と一緒に、あるシンクタンクを作って勉強をしていました。エネルギー政策の一点突破、それが太陽光だったんです。「太陽経済の会」というのが、そのシンクタンクの名前でした。

19世紀は石炭経済の時代だった。20世紀は石油経済の時代だった。21世紀は原子力ではなくて、太陽経済の時代なんだ、ということを中心にして勉強を重ねておりました。そうしたら、太陽のエネルギーというのをもっともっと活用していくような新しいエネルギー体系にしていかなくちゃいけない。その突破口は何と言っても太陽光発電だ、ということで実は準備をしていたんです。そこには大変な科学者もいました。

そして、私が選挙戦に出る、と決めたのは急な話だったんです。松沢前知事が突然東京都知事の方に行かれるという話になって急に私のところに話が来たので、私が最終的に決断をしたのが3月16日のことでした。立候補まで8日しかないという、こんな状況の中で、しかし太陽光発電については、皆と勉強してきたことがあるから、また専門家を集めて相談しました。「この政策を全面的に掲げたいと思う。」「そうですよ、黒岩さん。今こそ太陽経済の時代のスタートです!」「そうだな。じゃあどういう言い方をしようか。どのくらい付けられるかな。」と相談をしたら、「神奈川の世帯数は全体で400万くらい。大体そのうちの半分くらい付けられますよ。太陽光発電って簡単ですから、ポンって付ければすぐ電気生まれるんです。」「よし、じゃあ200万戸分だ。」という数字を出しました。正直に申し上げます。きちっと精査して積み上げた数字ではありません。その200万戸分というこの数字を出すんだと言って私は街頭に立って、この計画停電を起こしたら、このまま電力不足が続けば、神奈川の経済も崩壊する。そんな状態に絶対にしてはいけません。そのためにはこの太陽光発電を一気に普及させていくんだ。4年間で200万戸分を創るんだ。と、私の危機感の中で発した言葉でありました。それは当然のごとく、私の選挙公約最大のマニフェストともなりました。

そのときどんな状態だったか。私がこうやって街頭で「太陽光発電だ!」と言っても、皆さん、ポカンとした顔をしていました。あれ、届いてないなと思いました。なんで届いてないのかな、と思ったら、「それは太陽でお湯を創るやつですか?」と。つまり、「あっそう

か。太陽光発電、光。太陽熱じゃなく、太陽光。光の発電と言ったことが、まだ皆さんによくお分かりにならないんだな。」と思った。そこで私はソーラーパネルをメーカーから借りて来ました。そしてそれを見せました。「これが太陽光発電です。ソーラーパネルというものですよ。」皆さん、見ています。でも、今一つメッセージが届いてないなと。私はすごくそういうことを気にするタイプなんです。皆さんのところにメッセージが届いているかどうか。今一つ届いてない。なぜだろうな。切実さが今一つ伝わらないんです。

といったときに、3月の末あたり、段々段々、福島第一原発の事故の様子が明らかになってきました。当初はそんなに大層なことが起きたわけじゃないんじゃないかと、政府が発表しても大体そうでした。皆、割と楽観していたんです。ところがどうもとんでもないことが起きているぞという感じがしてきました。皆が気になったのは、放射能、原子力。それがどうなっているのか、不安感がよぎってきました。この思いと新しいエネルギー体系の話の連動させて発信していかなくちゃいけないと思って、街頭であえて実験的に言ってみました。

「脱原発」と言った瞬間に、道行く人の足がピタッと止まりました。そしてこちらを見てくれた。そしてその時に、「これだ！」とソーラーパネルを見せました。「これが皆さんを救うんです。原子力発電、頼れないでしょ、もう。福島第一原発があんな事故になって、この電力不足は続くんですよ。だから早くエネルギーを創るためには、このパネルですよ。」と言ったら、皆さんは頷いてくれました。

そうして、私も知事になることができました。とにかく早くしなければいけない。もう一つ数字を挙げていました。夏の冷房需要に間に合わせるために、5万~15万戸分、パネルを作る、普及させていくんだと言っていました。そして私は圧倒的なスピード感でやるんだ、国は遅い、だから圧倒的なスピード感でやるんだ、というそのスピード感ということを何度も繰り返しました。4月10日に当選させていただきました。ところが初登庁は4月25日です。2週間も空く。2週間は待ってられないという思いでした。そこで、今だからこそ言いますけれど、密かに初登庁の前に県庁に忍び込みました。そして内緒で幹部に集まってもらいました。そして、「早くやりたい、時間がない。」と言ったならば、県庁の職員もやってくれました。私が4月25日の初登庁した時にはもう既に、全庁体制で新しいエネルギー政策を検討していこうという体制が出来上がっていました。さあ、すぐにいくんだ、とにかく急いでくれ、という話をずっとしたところでありました。

県には県の政策のやり方があります。検討会を作って、そこで専門家の皆さんに検討してもらって、そこでの内容をもとにして政策を実行していきます。これが県の、国もそうですけれどね、政策の仕方、実施する方法です。で、その検討会、すぐにメンバーを集めました。専門家グループ。で、話を聞いたら、1年後に結論を出す。何を言っているんだと。今、夏の冷房需要に間に合わせようっていうときに、1年後に結論出してどうすんだ。ダメだ。「1か月で出してくれ。」と言いました。そうしたら、「分かりました、やりましょう。」って、1か月でその検討会が中間報告をまとめてくれました。

あとは、議会。議会は5月半ばに招集される。私と同じように4月10日に選ばれた新しい議会です。県議会。5月半ばに招集される。ところが聞いてみると、5月に招集された議会は招集されて集まったらすぐに休会に入る。実際に議論が始まるのは6月半ばから、という話を聞いた。冗談じゃない。6月半ばから議論を始めたら間に合わないじゃないか。だから、「5月に集まったらすぐにやってくれ。」という話をしたら、議会も「分かりました、やりましょう」と、県政史上始めて以来、初めて、5月に招集された議会がいきなりその場でソーラーパネルを普及させるための補正予算案を一気に通してくれました。

そして、強い勢いで、「神奈川からエネルギー革命を起こすんだ！」と言いつけました。テレビでも、4月10日に当選して、4月17日、日曜の朝の番組に呼んでいただいて、お話をしました。それはテレビ朝日の10時からの番組です。残念ながら「報道2001」ではなかったんですけどね。テレビ朝日の番組でした。

そのときに、「4年間で200万戸分を作るんだ。神奈川からエネルギー革命を起こすんだ。」と言っていたら、孫正義さんから電話がかかってきました。「テレビ観ました。感動しました。あなた本気ですね。一緒にやりましょう。」と言ってくれて、密かに孫さんと会いました。それが、4月26日、初登庁の次の日です。孫さんも早いです。一気にやろう、国がやったら遅すぎるから、知事連合でいきましょうというわけで、自然エネルギー協議会というものをスタートさせよう、最初は10の知事を集めてやろうと、密かに練りました。そしてスタートさせました。孫さんがこの話に関わってきたことによって注目度は一気に高まりました。そして、今度は、孫さんが当時の菅総理に会った。菅総理は「やっぱりそうだ！」とその気になった。菅さんがいきなりサミットの場に行って、「太陽光発電、1,000万戸作るんだ。」と言ってきました。あれは私の政策をパクったに違いないと思いましたけれどね。

で、一気に流れが加速してまいりました。それは皆さんご承知のとおりでしょうね。そして、エネルギー革命を起こすんだと言っていたことは、私はもう実感していました。革命は始まった。さっき言ったでしょ、ソーラーパネルを持ち歩かなければ分からなかったのが3月の末ですよ。今どうですか。この中でソーラーパネルを知らないって人いますか。太陽光発電の話、朝から晩までテレビでやっています。CMもどんどんやっています。家電量販店でもそのCMをやっているし、家電量販店に行ったならば、太陽光発電の特別コーナーがあります。各社がいろいろなソーラーパネルを出して競い合っています。今日、皆さん入るときご覧になりましたか、あの入口に、ソーラーパネル、あんなにたくさん種類があるのです。競争が始まっているのです。競争が始まるってことはどういうことか、それはどんどん質が良くなる。質が良くなってそして小さくなって、軽くなって、そして値段が下がる。

皆さん、携帯電話のことを覚えていますか。携帯電話、一番最初のときどんな姿だったか。こんなショルダー型のバッグのようでした。こうしてガシャンと取った。でも、そのときは、こうやって電話ができるんだと、それが非常に衝撃的で、それが今では一体型になりました。こんなお弁当箱のような。当時、私は記者でしたから、これで話ができるのがうれしくて、わざとみんなが通るところで電話をしていました。これが携帯電話だって皆が見ていました。ところが、あっという間にどんどん小さくなって、薄くなって、性能が良くなって、そして、今は電話だけではないですよ。メールができる。これでインターネットもできる。これだけで飛行機の予約や電車の予約、劇場のチケットなんかも予約できるというものに変わった。これが革命というものです。情報における革命だった。どれぐらい時間がかかったか。あっという間の出来事でした。

同じことが今エネルギーにも起きているということです。エネルギー革命を起こすんだというのは始まった。エネルギー革命に火を付けたというそういう自負はあります。でもこれを本当に神奈川の皆さんにどうやって勧めて、普及していくのかということでは、いろいろと知恵を絞りました。いろいろ学習もいたしました。私は、当時、本当の危機感があったから、早く新しい自然エネルギーを作らなくてはいけないとずっと思っていました。ところが、創るだけではないのだということがだんだん分かってまいりました。

エネルギーを創るというのはいわゆる「創エネ」ですね、これは大事なことです。だから、太陽光発電だけでなく、いろいろな新しいエネルギー体系、風力発電だとか水力発電だとか

いろいろあるだろう。エネルギーを創る。でもそれだけではなくて「省エネ」。皆さんこの夏に一生懸命がんばっていただきましたよね。少し我慢して、夏の冷房を本当は冷やしたいけれども、省エネで昼間も暗くしてがんばっていただきました。エネルギーを省エネするということは、エネルギーを新しく創ることと同じ効果がありますよね。それと「蓄エネ」というものがある。エネルギーをためるといことです。ソーラーパネルを付けて、電気が生まれます。でも、生まれた電気はその時に使われなければ、エネルギーとして生かされないのです。エネルギーとはそういうものなんです。ところが、それを蓄電池でためておくと、夜使えます。そうすると、夜使える「蓄エネ」というのは夜電気を創っているのと同じ効果です。そうすると、エネルギー政策というものは、エネルギーを創るだけでなく、「創エネ」「省エネ」「蓄エネ」、これを合わせた、そういう総合的な政策にしなければいけないということを学習いたしました。

そして、じゃあ、どうやってゴールに向かって行くのか。私は、知事の任期は4年だから、4年間、4年間と言ってきました。ところが、エネルギー革命に火が付いてみて、政府もそういうことを言うようになってきて、政府はどういう言い方をしたのか、2030年に要するに全体エネルギーの21%をその自然エネルギーにするというふうな言い方をしました。2030年をできるだけ早くしたいというふうな言い方。そうか、エネルギー政策というものは、中長期でお伝えするということが大事なことなんだな。

しかし、政府が言っている2030年はちょっと先過ぎるから、2020年、ここでどれだけの目標にいけるか。専門家グループ、今度は私の個人的な専門家グループだけではなくて、そういう県の検討会に来てくれた様々な専門家の皆さんとともに精査しました。

そうしたら、2009年度、これ県内の年間電力消費量が502億kWhであります。このうちの再生可能エネルギー、これはつまり、太陽光であったり、それから、風力、小水力、バイオマスなど、こういったもの合わせて2.3%です。これを2020年度までに、この2.3%を「省エネ」で4%。4%っていうのは、今年経験していただいた夏の省エネ。電力をあれぐらいは耐えられますよね。その省エネで4%。あと、さっき言ったエネルギーを創る「創エネ」とエネルギーをためる「蓄エネ」を合わせて16%程度です。合わせて20%以上を目指している。これを新しい政策に掲げました。これは、2030年、政府が言っている自然エネルギーが21%ですから、10年前倒しをするという高いハードルであることは間違いないものです。しかし、これならいけるということで、じゃあ、これをお伝えしていこうと言ったのが、新しい政策、「かながわスマートエネルギー構想」というものでありました。これをこの9月の県議会でご提示いたしました。そして基本的な考え方を整理しました。

今、エネルギーにとってどういうことが必要なのか。どういうエネルギーを創ってやらなければならないのか。まず第一。「原子力発電に過度に依存しない」ということですね。これ、私が「脱原発」と言っていたことです。過度に依存しないということです。というのは、これは誰の目にも明らかですよ。福島第一原子力発電所であのようなことがあって、さっきから何度も同じことを言っていますが、福島第一原子力発電所はもう使えない。日本全国にある原子力発電所は定期点検といって一旦止まります。皆点検したといって、動かしたいけれども、動かす再稼働について、住民の皆さんは不安があるから止まっています。私は全部止めてしまえとは言わない。それは無理です。いきなり原子力発電所が全部なくなるのは無理です。私は反原発とは一言も言っていないです。「脱原発」です。脱していかなければいけない、新しいエネルギー体制に脱していかなければいけないということで、「脱原発」と言っていたんです。

そして、停止している原子力発電所を高い安全基準、これまで以上に高い安全基準、よしこれなら大丈夫だと、動かしたとします。それを私はある程度許容しなくてはいけないと思っている。ところが一番肝心なことは何かというと、新しい原子力発電所を造ることができるかどうか。できると思いますか。新しい原子力発電所、それをいいですよ。うちの町に造っていいですよと日本人の誰が言ってくれますか。これはハードルが高いでしょうね。ということは、どういうことかということ、新しい原子力発電所ができなければですよ、いつかは耐用年数が過ぎていくんです。福島第一原子力発電所なんかは40年ですよ。欧米では33年が耐用年数だと言っている。そんなに長く使っていたんですよ。これからどんどん停止したやつを動かしたとしても、どんどん耐用年数が来ちゃうんです。そうすると、新しい原発を作らない限り原子力発電所はなくなっていくのです。だから、「脱原発」というのは、もう私は議論の段階じゃないと思っています。「脱原発」がいいんだ。原発を推進するのは結構です。結構だけれども、推進は新しい原発を造るということですか。そこはなかなか厳しいのではないですか。ということは、「脱原発」ってことは歴史の流れなんです。だから早く新しいエネルギー体制を作っていくといけないのですと言っているんです。

過度に依存している。じゃあ原子力発電所がそういう状態だったら、火力発電所で前みたいに石炭焚いてね、どんどんCO₂が出てもしょうがないとは言えないでしょ。やっぱり「環境に配慮する」ということは、今この時代絶対的に必要なことですね。

それと我々はもう1つ学習しました。我々の日常生活で夏暑いなあと思ったら、ポンっとスイッチを押したら、クーラーがサーッと効いてくる。こういう生活は当たり前だと思っている。ところが、この当たりの生活が、この神奈川から300キロ離れたあの福島の皆さんに、あれだけのリスク、恐怖を与えながら、我々はその生活が当たり前のことだと思っていた。その事実を知ったわけですから、そうしたならば、新しいエネルギーというものは、なるべく自分の生活の周りで創っていくということが必要なんじゃないか。これがエネルギーの「地産地消を推進する」ということであります。

この3つの大原則、そして先ほど言った、2020年度までに2009年度をベースにしたときに、「省エネ」「創エネ」「畜エネ」を合わせて、20%以上にする、それを新しいエネルギー政策ということで考えたわけです。それを公約で言っていたのとは違いますからね。公約を撤回したのか、なんて言われましたけど、撤回したつもりは全くありません。新しいきちんとしたエネルギー政策を掲げたつもりであります。でもそれは理解できない、まだ分からないと言われるものですから、今、こうやってご説明しているというわけです。もしまだ疑問がございましたら、どんどん言ってください。それに対して一生懸命にお答えしたいと思っています。

まず、私の方から、こうやってご説明をいたしました。ソーラーバンクですね。私は選挙期間中に、こういう言い方もしました。太陽光発電を一気に普及させていきたいんだ。そのために一番早く普及する方法は何でしょうか。タダで付ける。タダで付けられたらどんどん普及するでしょ。理論上はタダでも付けられるんですと言いました。その時に話をしたのがこれです。実際に今、仕組みを作っています。もうすぐご提示できるはずですよ。何でタダで付けられるかということについてご説明したいと思っています。

ご家庭でこのソーラーパネルを付けたいなあと思うと、県で相談窓口を設けます。で、付けたいんですけども相談をする。そうするといろいろな業者があります。そこに、この人こんなの付けたいって言っているんですけど、どうですかねえと言うと、いろいろな業者が調査し、費用の見積もりをし、そして気に入っていただけたら契約をします。という流れ

になります。そうすると、ここで、付けるところが決まったならば、今はですね補助金が出るんです。国と県、市町村の補助金があります。この補助金がおりにきます。大体まあ、20万~30万くらいですかね、一戸建てで。そして、今、それとともに、金融機関がソーラーローンを作ってくれました。これももう、すごい勢いで作ってくれたんですよ。私が、早く早くと言うもんだから、普通の金融業界では考えられないスピードでソーラーローンを作ってくれました。もう神奈川県内の主な銀行はほとんど作ってくれました。で、銀行に申し込むとそのお金がポンっとおりてまいります。そして、これを設置費用として払うと、ソーラーパネルが付きます。ソーラーパネルが付くところで生まれた電気、これがポイントなんです、ここで生まれた電気は、電力会社買い取ってもらう。売電ができるんです。ソーラーパネルはお金を生むんです。これ今、ソーラーパネルを付けてご自分の家で使って余った電気を買って取ってもらうことができます。そうすると、その電気、売ったお金が収入として入ってきます。この入ってきたお金をローンの返済に充てます。そうすると、屋根にポンっと付けたら、ぐるぐるぐるぐる回っているうちに、うまくすれば、結果的には、ローンが消えるんです。結果的にタダで済みます。ということです。

これを実現するためには、実は、大前提があったんです。それは我々の力だけではどうしようもなかった。というのは、法律だったんです。法律。今私が言いましたけれどね、これがポイントなんです。売電と言ったけれども、今はですね。自分の家で使って余った電気を買って取ってくれます。というこういう仕組みです。

自分の家で使わないで、全部買って取ってもらうという、全量買い取り。これが法律で決まれば、間違いなくタダです。ローンが必ず返って来ます。で、その法案が実は国会で出ていたんです。それが再生可能エネルギー法案というものです。

ところが、なかなかその法案の審議に入らなかった。国の方もそれどこではなかったのでしょうね。東日本大震災があり、さあどう対応するか。それで必死でしたから。なかなかそこまで回らなかったんでしょ。

しかも、あの当時の菅総理大臣が、あの再生可能エネルギー法案が通ることが私が辞める前提だ、なんて言いましたから、余計通らなくなっちゃった。ということが、あったんですが、ようやく通りました。8月の末、再生可能エネルギー法案通った。

だから、一応この仕組みができました。しかしまあ、今の現状では、この家庭用だけは余剰電力買取のままになってしまいました。というところが一つ問題ではあるんですが。しかしそれでも大丈夫。

次のパネルにいきましょうか。今、お金はどうなっているかということをもうちよつと説明しますね。住宅用太陽光発電の設置費用、大体ですね、お家の大きさにもよりますけれど、一戸建てで3.3kWくらいです。3.3kWを付けるとき、大体200万円くらいかかります。200万円くらい。

それで、さっき言った補助金があると言いましたね。国と県と市町村、大体平均26.7万円。20万円から30万円くらいですね。で、じゃあそのさっき言った売電収入というのは、どのくらいあるのか。パネル1枚付けて、自分の家で使って余った電気を買って取ってもらうという余剰電力買取で、大体いくらくらいメリットがあるか聞いてみると、大体月1万円です。月1万円メリットがあるんですよ。12か月で12万円。その制度は、10年間の仕組みですから、120万円は売電収入などがあります。

そうすると、これが（補助金が）大体ざっと30万円、（売電収入などが）120万円として、150万円は何とかなるんですね。でも（設置費用は）200万かかる。200万円を引き算すると

50万円分。50万円分は、自己負担になるんですね。

でも、私はタダで付けると言ったんだから、この50万円を何とか減らせないか。

そうしたならば、革命が起きてきたでしょ。さっき、携帯電話の話をしたでしょ。革命って何だ。質が良くなって、値段が下がる。私がこれを計算した時は、実は3月です。3月の時点では、パネルを付けるのは200万円だったんです。

ところが、ああいう風に、競争が始まったでしょ。今、パネルの値段がドーンと下がっているんです。今現在で、180万円に下がりました。だから、あと30万円。これ、どんどんどんどん下がっていきます、ということなんですね。それとともに、いろいろな知恵があります。というのは、これも最終的には、国が判断すればできるんですけど、多分できると思います。家庭用は余剰電力買取と言いましたけれど、家庭用っていう表現じゃないんですよ。何かと言うと、kW数で、10kW未満がその余剰電力買取です。10kW以上は全量買取。こういう分け方なんですね。

でも、一戸建てが3.3kWだ。じゃあ10軒集めれば、33kWですね。10軒集めて1つの単位という話にすれば全量買取です。これもできるのです。じゃあそんなことを可能にする仕組みをまた考えました。とにかく必死で考えています。本当に。よくまあ、みんなで知恵を絞りましたよ。これ。

これ、実はですね。「屋根貸し」という仕組みを考えました。屋根を貸してもらおう。というのはね。今、一戸建ての話をしてました。一戸建ての話、一番分かりやすいから一戸建てって言っているんですね。でも、アパートに住んでいるんだという方もいくらでもいらっしゃいますね。むしろそっちの方が、ずっと多いですよ。じゃあ、アパートの住人にとっては、太陽光発電は関係ないのか。そうじゃない。そうじゃない仕組みを考える。だから屋根を借りてくるんです。公共施設とか、工場、事業所、いろいろなところに大きな屋根がありますね。このショッピングモールなんか大きな屋根があるでしょうね。屋根貸してください。そこに、大きなソーラーパネルを付けます。そして、それを小分けします。「マイパネル構想」。だから、私は、アパートに住んでいるだけけれども、私のパネルは、あそこの工場の3段目の2列目。あれが私のパネルです。マイパネルです。

で、そこを買ってもらおうのです。買ってもらいます。買ってもらったならば、さっき言ったでしょ。売電収入になり、売電収入の一部が自分のところに戻って来ます。ただ単に買うだけでなく、お金が戻って来る仕組みです。それをお金で戻すのかいいのか、商品券で戻すのかいいのか、いろんな方法があります。

で、この「屋根貸し」というのは、だからさっき言ったように、一戸建てでも10軒の屋根、これを全部県に貸してくださいと言ったならば、これ、「屋根貸し」で同じことですよ。だけど不思議な感覚になりますよ。自分の家の屋根に付いているだけけれど、この屋根はあそこのアパートの何とかさんのもの。それは一種のフィクションですからね。これは。そういう形で実は、皆が参加できる形ができるということです。

それと今は、さっき言ったように、補助金制度があります。今は。でも、補助金は、もうすぐなくなります、多分。補助金に、いつまでもいつまでも頼っていただけならば、これはもたないです。国の補助金は多分もうすぐ終わりますよ、どこかで。いつ終わってしまうか分かりませんが。それと同時に県も市町村も終わっていきます。だから、早く付けた方がいいですよ。補助金でやりたい人は早く付けた方がいい。でも、じゃあ補助金がなくなったら、この流れが一気に止まっちゃったら、これも困りますよね。

そこで考えたのが「市民ファンド」。「市民ファンド」による設置。ファンドを作ります。

「市民ファンド」というものを作ります。そして、県民の皆さん、企業、金融機関等々に出資してもらいます。実は、再生可能エネルギー法案が通った直後、海外の投資家から、私の親友の金融マンにどんどん問い合わせ入ってきました。

つまり、これから日本は、エネルギー革命が始まるんだというふうな目で、海外の投資家が見ているのです。そうしたら、そこはもう投資の対象ですから、海外からお金がどんどん集まって来るほど可能性があるわけです。「市民ファンド」というのを作ります。そして、このお金を使って設置していく。賃料で運営していくという形になっている。そうすると、要するに民間のお金がぐるぐるぐるぐる回って普及させていく。これって、やっぱり革命っていうものではないでしょうかね。これで、どんどんどんどん流れは加速していくと思うんですよね。

というのが、まあ、いろいろ話をしたから頭が混乱したかも知れませんが、これが、私が考えた「かながわスマートエネルギー構想」というものでありまして、だから、これを早くね、どんどん進めていきたいんです。それをね、皆さんの気持ちを一つにしてどんどん進めていきたいんです。

最近私のところに海外からいっぱい取材が来るんですよ。なぜ、海外から来るのか。イギリスも来ました。ドイツも来ました。中国も来ました。何だって言ったならば、エネルギー政策っていうものは国がやるものでしょ。何か、県がエネルギー政策、エネルギー政策って言っていて、エネルギー革命を起こすんだと言っている。言っている内容は国がやっているものになっている。この構造が面白いって。だから、この神奈川は、エネルギーでは、そういう意味では、最先端で県が動いているというふうに周りから見られている。だから、この流れを消したくない。と思っているのであります。

私の説明は以上ですが、事務局の方で、ちょっと補足する説明がありましたらお願いしたいと思います。

(司会)

知事、ありがとうございます。それでは、藤巻環境農政局新エネルギー・温暖化対策部長から、補足説明をお願いいたします。

(新エネルギー・温暖化対策部長)

それでは、皆様のお手元の資料でございますけれど、カラーで印刷してありますこの冊子をご覧くださいいただければと思います。

「かながわスマートエネルギー構想」と書かれているこのカラーの冊子でございます。この右下にページ数が記載してございますが、5ページまでは、今、黒岩知事からお話がございましたので、私からは6ページ以降について、簡単に説明させていただきます。皆さん資料をざっと目で追いながらお聞きいただければと思います。

6ページは、他の再生可能エネルギーということでございまして、太陽光発電以外にも既に、風力発電、水力発電、ここに記載してあるような施設が神奈川県内には設置されていて発電が行われています。今後もこうした、いわゆる再生可能エネルギーが、太陽光発電と同じように新たな買取制度の対象になります。風力発電、小水力発電についても、今後は電力を買っていただけるということになりますので、新たな制度を利用しながら、県としては、市町村と連携して、取組を進めてまいります。

それから7ページに移りまして、「省エネ」の取組であります。「省エネ」は、ここにご

ございますように、家庭、それぞれ企業で進めていただいています。そうした中でも右上、あるいは右下にありますように、いわゆるこういった省エネナビと言われているようなもの、実際に今どのくらい電力を使っているのか、こういったものを設置して、「見える化」をしていく。こういうことが様々な「省エネ」の取組につながってまいりますので、こうしたものを導入しながら取り組んでいただきたいと思います。

そして、神奈川県取組として、みどりのこの四角い枠でございますが、神奈川県地球温暖化防止活動推進センター、あるいは、神奈川県の地球温暖化対策課において、それぞれ省エネ診断等のご相談あるいは、ご指導をさせていただいておりますので、ぜひご利用をいただきたいと思います。

それから8ページに移ります。3つ目の取組でございます「蓄エネ」でございます。近年、技術開発が進んでおりまして、従来よりも小型で、大量に電気をためることができますリチウムイオン電池が開発されました。それが電気自動車に搭載をされている訳でございます。この蓄電池をうまく使いますと、電気の使用量が少ない夜間に電気を蓄え、昼間のピーク時に使う、こうしたいわゆるピークシフトに使うことができます。

また、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーは、日照や気象条件によって発電量が変化をいたします。まあ、不安定な要素がございます。そうしたものも蓄電池を使うことによって今後安定した電力として供給することができます。神奈川県では、ご案内のとおり、これまでも電気自動車、EVの普及に力を入れてまいりました。

今後ともEVの普及に取り組むとともに、新たに、EVの使用済みのバッテリーを再利用した蓄電のプロジェクトにも現在取り組んでいるところでございます。こうした自動車会社では、EVから、電気自動車から直接電力を取り出して家庭で使うことができる「給電システム」についても、来年度から販売が開始されるということでございます。こうした技術が発展いたしますと、各家庭で太陽光発電とEVを組み合わせ情報通信技術とコントロールしながらスマートハウスを実現していく、こうした取組も進めてまいりたいと思っております。私からの説明は以上でございます。

(司会)

はい、事務局からの補足説明でございました。それでは、お待たせいたしました。これより、黒岩知事との直接の対話ということで、まずは手を挙げていただきまして、ご質問、ご意見のあります方、マイクをお持ちいたしますので、黒岩知事に指名されました方から、発言をお願いいたします。お一人様3分以内でお願いいたします。それでは、ここよりマイクは黒岩知事にお渡しいたします。お願いいたします。

(知事)

じゃ、質問のある方どうぞ。おお、たくさんありますね。じゃ、青い方。

(参加者)

二宮から来ましたカガミと申します。神奈川県の地球温暖化防止推進員、10年やっています。今年の夏、100件、節電チャレンジの指導をやりました。今年の冬は160件。一人で二宮町をやっています。

本当に期待していました。今日の話聞いて、結論的には本当、頑張ってもらいたいと。10年前から、私も太陽光発電を推進していきまして、二宮の町長に、「カガミ君、ちょっと早

過ぎたよ。」と。その頃は、公共施設に80%補助というのがありました。今、ないんですよ。

実は、今日、黒岩知事の4月26日の朝日新聞の記事を持って来ました。結論的には、本当、頑張ってくださいということなんですけど。一つ、あまり言いたくはないんですけど、すごい、期待してました。神奈川県ソーラーバンクっていうことを提唱して、皆さん、屋根を貸してくれば、無料で10年後にはお金が入りますよ、という。ちょっと、読みましょかね。ちょっと、時間が無いからあれかも分からないですけども。

「黒岩知事は独自の太陽光発電を普及させる構想を実現させるため、陣頭指揮に立つ考えだ。ただ、実現までにはクリアすべきハードルがあると専門家らは指摘する。構想によると、住宅やビルなどの屋根を借りてソーラーパネルを取り付ける。一般住宅だと設備費用が約200万円かかるが、県が出資して設立する県ソーラーバンクが金融機関から融資を受け、費用を肩代わりする仕組みだ。パネルが発電する電気は、電力会社に全て売り、その収入をバンクが金融機関へ返済にまわす。そのため、屋根を貸している県民には負担がかからないという。完済後は設備がもらえ、売電収入も得られる。さらに、設備工事が増えることで3万人の被雇用が生まれ、震災の被災者を仕事付きで迎えられるという。ただ、金融界は疑問の声も上がる。目標の200万戸の設置費用は、単純計算で4兆円に上る。」

ようは、さっき言いました「県民には負担がかからない」という。これは、政策発表資料をもとにして、神奈川県ソーラーバンクを作るという朝日新聞の4月26日の記事なんです。そのことについて、補足説明って言うか、お願いしたいなと思います。

(知事)

はい、ありがとうございます。いま、全部説明をしたと思うんですが。「個人負担がなく、タダで付けられると私言いました。」と言いましたね。そのことを、さっき理屈のご説明をしたと思います。そのときに、「全量買取ということができれば、必ずタダになる。」と言いましたね。法律は通ったんだけど、残念ながら一戸建てだけは外された。でも、何とかして約束したとおりにできないか、といったときにさっき言ったように、パネルの値段が下がってきているということがあるし、実際、ただ下がっているだけじゃないです。実は、さっき言い忘れましたけれども、「かながわソーラーバンク」が大量に一括発注する。物ってそうでしょ、たくさん買ったら値段が下がる。その交渉も実はしているんです。それによって、値段をさらに下げる。そうしたならば、限りなくタダに近づいていくということがある。それと同時にさっき言ったように、一戸建て単独でしちゃうと、その余剰電力買取なんだけれども、一戸建てでも全部、10軒集めれば、全部屋根貸ししてください、といった全量買取も中に入る。これをやれば、やっぱりタダになるでしょ、ということですから。

それから、金融機関が不安視していると今おっしゃったけれども、金融機関はその後一気に動いた。一気に動いたんです。ソーラーローン。これ、全部作ってくれたんです。だから今もう、すぐにできる体制が出来上がっています。今日、皆さん帰りにあそこで実際に申し込んでみてください。ソーラーローン、すぐにできます。ということでありまして、今日、今ご指摘いただいたこと、あの当時の私の知識の中で話をしたこと、そしていろいろ学習してきたということもあり、今日お話をしたということでありまして、そんなに大きく外れていないんじゃないかな、と私自身は思っておりますが、まだ疑問がある方はどうぞご質問ください。はい、どうぞ。

(参加者)

小田原のカネコと申します。電気屋なんですけども。実は、黒岩知事がおっしゃっているソーラーバンクの中で、今、パネルの大量一括購入とおっしゃいました。これの選定はどんなさるのかということと、パネル購入の、一括購入の選定ですね。入札になさるのか。一部、相模原の方では、リバースオークションというお話も出ました。それが一つ。

それから、パネルメーカーと業者を分離発注するとか、それは相模原の会場でおっしゃったということだったんですが、今日はまだその点にはお触れになっていらっしゃらないということなんです。それがあって、民間の屋根に付ける設備を行政が介入して一括で付けるという、そこまでなさっていただくと、我々中小業者は出る幕がなくなってしまうということになると思います。

それと、先ほど県が相談窓口を設置するとおっしゃいましたですね。欲しい方が相談窓口に行って、相談窓口からパネルメーカー等に行くということは、ソーラーパネルを販売する事業者をないがしろにしているというような感じを受けるんですが、そのへんはどういうおつもりなのか、ということと。

いろいろ、問題が多すぎて、ちょっと3分でまとまらないんで、一応文書を用意してきましたんですが。後で、これはアンケートと一緒にお渡ししますけど。主だったところ、横浜でも5区で今設置しているところがありまして、その周辺では安売り合戦になっていると。市が付けるところの価格より、さらに安い価格を、中国製のパネルを持ってきて付けると。そうになると、パネルのダンピング、あるいは工事価格の下落、そういうものが一気に加速して起きるということ。先ほどおっしゃいましたね、ソーラーパネルも先行けばどんどん下がるでしょうけど、行政が介入して一気に値段を下げると、パネルメーカーも苦しみますし、中小企業者を圧迫することになるのではないかと、そういう懸念を持っております。そのへん、いかがなものでしょうか。

(知事)

そうですね。わかりました。私は、電気屋さんが一番喜んでくださるとばかり思っていましたけれどね。そういう仕掛けを考えています、実は。ご説明します。

大量一括発注といったときに、どういう業者を選定するのか、当然それは今はもう、入札ですね、それは。それで、我々考えているのは、パネルと設置工事、これを分けると。これを分けようと思ってます。そして、パネルは安い方ですね。で、やっぱり私はこの太陽光発電を一気に普及させていくということによって何をしたいかということ、要するにエネルギー体系を変えることだけじゃなくて、産業を活性化したい。県内の経済を活性化させたいんです。

だから、せっかくエネルギー革命が起こったよ、太陽光パネルがどんどん付いているよ、でも、ふっと気が付いたらみんな県外の業者が得をしているだけだよ、ということになったら何の意味も無いです。だから、パネルを下げるためには激しい競争もしてもらいます、これは。

そして、今リバースオークションという言葉が出て来ました。これ、皆さんなじみが無い言葉だと思います。オークションってご存知でしょ。オークションというのは、はい、じゃこのペンいくら。はい、じゃ100円、200円、300円、だんだん値段が上がっていきますね。で、500円、一番高い数字を言った人に、はい決まった。これが、オークション。リバースオークションっていうのは逆なんです。このパネル1枚いくら。はい、10万円、次8万円、

7万円、6万円、5万円って下がっていく。一番低い数字を出したところに、はい決まり。という、こういうリバースオークション。普通のオークションと逆なんですね。これで、ちょっと実験的に今度やろうと思っています。県の公園で太陽光発電を付けるというときに、実験的にやってみようと思っています。ただ、それはパネルの値段だけです。

工事は別です。工事は、なるべく県内の業者さんにやってもらおうと思っています。でも、こういうときによく気を付けなきゃいけないのは、すごくレベルの低い指摘をしているんですけども、変な業者がやって来て、いきなり適当な工事をやって屋根に付けられたら、付けて帰ったはいいいけど雨漏り、ベチャベチャになってしまったとか。これは困りますから。そうならないようにという形で、それはちゃんとした「かながわソーラーバンク」で品質を管理、というところをやっていきたいと思っています。

相談窓口をさっき県で、と言いましたけれども、あれは絵で描いたからああいうふうに見えるんです。絵で描いたから。あれ、イメージです。実際の相談窓口はどこか、といったらそれは、ユーザーが買いに行ったところ。県がそこに、じゃあなたのところは相談窓口をしてくださいね、という形にしますから、皆さんが全部県庁までやって来て、そこで相談するということはぜんぜん考えていません。

だから、県内の業者さんが潤うようなことをずっと考えています。で、付ける皆さんもやっぱり潤うような形、みんながwin-winということで考えてますから。まだ、それでもこのへんがちょっと問題があるよ、というのだったらそれだんだんご指摘ください。我々もだんだん考えながらやっていきます。やりたいと思っていることは、そういうことです。

(参加者)

相談窓口には、エントリーができるということですか。

(知事)

基本的にそうなりますよね。ちょっと、事務局いいですか。

(新エネルギー・温暖化対策部長)

相談窓口は、いま、一括発注という言葉が出ていましたけれども、県が直接、例えば1,000戸分を、具体的に例えば何十億を出して、ということではなくて、皆さんからのいわゆる申し込みを取りまとめる、ということでございまして、その部分でちょっと勘違いをされている部分があるということと、それから、相談窓口というのは基本的には受付をして、パネルメーカーあるいは業者の皆さんの方にそれを取り次いでいく、と。そのことによって何が変わるかというと、各メーカーの皆さんは今、個別販売をしたりして大変そのところで人件費を使っておられる。それをある程度、いくつかのモデルを、複数のモデルを県が提示することによって、それに申し込みをいただく。そうすると、その販売費用の部分が相当カットできますので、その部分で価格を下げていく。つまり、県が取りまとめをすることによって価格を下げるという、そういう取組が今必要と考えています。したがって、そこはいわゆる、受注を取りまとめる、というのが一つの機能。

それからもう一つは、まだまだ太陽光発電が県民の皆様に懸念、ご疑問がございまして、いろいろなそういう疑問にもご質問にもお答えしていこう、そういうことで県が設置をさせていただいて、運営はNPO法人ですとか、そういうところと連携しながらやっていきたいと今思っております。

(参加者)

時間をとって申し訳ありません。ソーラーパネルの価格とkW当たりいくらというのを提示されると、その価格が一人歩きをしまして、パネルというのはそれぞれのお宅の屋根の事情、屋根の形とか大きさ、あるいは日当たりの具合とか屋根下材の材料の違いとか、そういうことによってまちまちになるのですが、一括の切妻のところでは3kW付けたらいくらと、そういう募集をされますと、3kWはいくらというその価格だけが先に一人歩きしてしまう。そうすると他で見積もりをしたときに3kWいくらだけど、こっちの3kWであれば200万とか180万とか、それは高いよという話になってしまって、条件が違うのに同じような形で価格だけが一人歩きしてしまう。それを非常に懸念しております。

(知事)

ちょっと専門的な話になって皆さんお分かりにならないと思います。要するに我々が考えているのは、なるべくパネルを安くして、県内の業者さんには仕事が回るようにしようということでありまして。それはkW当たりいくらいくらという話を今ここでしても、あまりにもブロっぽい話なので、それはちょっと別途と思いますけれども。

(参加者)

中井町から来ましたカトウといいます。知事にお聞きしたいのですが、まず、「かながわソーラーバンク」の仕組みということ、知事が選挙の公約で話したように、その時、その仕組みを分かっていたのですか。それと同時に、今、太陽光の仕組みを今、知事は分かっていますか。それと同時に20年間で日照時間がどのくらい差が出ているかということをご存知ですか。

(知事)

分かっているかどうか、私の説明で分かっていると感じられたのですか。

(参加者)

実は私は業者なのです。もう14年前から太陽光に携わっています。13年前に通産省のモニターで4キロが当たって、これただ実際的にはモニターだったのですが、10年間いろいろな工夫をしてきました。自家発電。今、自家発電で私どもの会社では約100キロを使って、東京電力さん、商用電気を使わないでやっています。その中でいろいろなやり方があるのですが、ただ一般の住宅に太陽光を付けるに当たって、非常にお客様が言うことは、先ほども言っているように「知事はタダで付けてくれるよ。」と。これが全てなのです。これを撤回して、説得して毎日頑張っております。「知事は選挙に出るために話ただけだよ。」と。「実際、考えは何もないのだよ。」と。というようなことで、説得をして付けさせていただいております。今現在、中井町人口が1万なのですが、もう100戸くらいの件数を付けています。今、神奈川県では多分うちが一番やっているのじゃないかと思っています。だから知事もそのへんのところを本当に太陽光の仕組みを分かかって。さっき銀行が、ローンを知事の考えで銀行が動いたというような言い方をされましたが、当然これは去年からクレジット会社は当然2.何%、今の銀行と同じことをやっています。知事が全てやったとは私は思っておりません。以上です。

(知事)

普及をさせるために私は嘘をついたわけではありません。分かっていたのかと言われると、私の説明で分かっていないと思われた方はいらっしゃるでしょうか。理論的には誰でもできます。法律が通らないといけないという話をずっとしていました。全量買取がベースになります、と話をしてまいりました。法律は通ったけど、全量買取から一戸建ては外された。それでもなんとか知恵を絞っていくということをやっているとあります、その気持ちは何の嘘をついたとか、騙したとか、それを知らなかったとか、それを後で全部修正したとか、そんなことは全くありません。私の気持ちの中では、全く無い。だから普及させて付けてくださいと言うことを、ことあるごとにずっと言い続けてまいりました、ということですけど。

ソーラーローンのことについてもおっしゃいましたけれども、それは銀行の頭取から私は言われました。「よく早くに作ってくれましたね。銀行が。」私言ったのですよ。そうしたら「あなたが200万戸分付けろって言うからですよ。」って私が言われたのです。そのことをお答えしているだけであって、私が全部やったとは言っておりません。それを一番先にやってくれたのは横浜銀行ですよ。横浜銀行は言ってくれましたよ。「こんなに早くローンができましたね。すごい低金利の。」そうしたならば、そのトップが言ってくれたのです。「黒岩さんが言うから。そこまで言う。知事がそこまで言うっていうのは重いのですよ。だから普通ならできないことをすぐにやったんです。我々も頑張りました。」と言ってくれました。以上です。

(参加者)

南足柄から来ましたスギヤマと申します。私は林業をやっております。先ほど知事さんからエネルギー革命というお話をいろいろ伺いまして、それもなお、ソーラーで電気を作ると。しかし神奈川県は水源の涵養ということで、数十年前から水源の森事業、また数年前から水源環境税をと、森を非常に大事にしてきました。それを間伐しろといろいろな所で間伐したりしました。ところがその材が今、出口が無くて困っております。それをなんとか使い道がないかと考えました。先ほどからソーラーパネル、非常に一面的な光の利を得る。森林は非常に多面的な葉っぱの上から下まで光合成をして一つの光を利用しております。それでできたものをどう使っていくか。それを先ほど地産地消という面で、このバイオマスという形の中で、生ごみを焼却している場所に、発電が伴うことができると。そういうシステムができた。それもいろいろ調べますと、2005年に環境省が20%以上の発電効率を上げれば補助金を5割出すという制度もあるのです。ですからその生ごみにチップを添加して、発電ができないか。安定した発電ができないか。ということでいろいろしたところが、できるだろうと。形ができました。まだ実証実験はやっていないのですけれども、近々のうちに実証実験をやって、なんとかバイオマスで、せっかく生ごみを焼却しているので、発電を伴う。と同時に地産地消である、この山から出てきた産物をいかに効果的に発電、時代の、先ほどからお話のように原発の代替エネルギーとしてもっていけないかと。それこそまさに、知事さん、この神奈川県から、神奈川発のバイオマス、地域、地産地消という中でソーラーパネルとともに、神奈川発のエネルギー改革ができないかのご提案です。

(知事)

はい。ありがとうございます。太陽光発電の話は私は重点に話をしていましたが、バイオマスもおっしゃるとおり大変な可能性があります。実際に川崎にバイオマス発電所があります。実際に見てまいりました。これは3万3千kW。だからさっきの太陽光発電だったら、一軒家だったら3.3kWと言いましたから、これの1万件分のバイオマス発電所。そこで使っているのは何かというと、木材チップ。今ご指摘の通り、間伐材とか廃材とかチップにするのですね。それをバイオマスの力で電気に変えていく。あとコーヒーの搾りかすとか。いわゆる廃棄物です。生ごみとおっしゃいました。そういうものを使って電気にするという。これは大変大きなものがある。それでこの発電所を見学させていただいて、「これをもっともっと作れませんか。」と話をしました。そうするといろいろな法律の制約が今はある。いろいろな法律の規制があつて、もっとやるためには、そのへんの規制緩和が必要だと。今そのことを整理して国に対して何を求めるかということ整理しているところです。

(参加者)

すいません。知事さん今お話のバイオマス発電だけではなくて、生ごみ焼却場にプラスアルファで発電システムが付いている箇所があるのです。だからその発電に生ごみを燃焼させるだけじゃなくて、その熱が非常に不安定らしいですね。火力が。燃やしたその生ごみが燃焼するときに。それを安定させるためにそのチップを投入して、安定した火力を出して、熱量を出して、それでタービンを回す。安定的な発電ができないか。そういう提案なのです。

ただバイオマスで燃焼させているだけじゃなくて、生ごみは各々の市町村で当然やらなければいけないことです。それを、付带的に発電設備を持ち、生ごみの非常に不安定な発熱量を安定させるためにチップを投入すると。試算ですけれども、現在数百万tのチップが全国にある。今全国で1,200箇所あるそうですけれども。その中でことごとく大型化をすると熱効率が上がり、発電効率が上がるのですけれども、そんなことを含めて、まさに横浜、川崎、神奈川県は相模原を含めて大きな市があるわけですから、そういう所がそういうシステムを取り入れていただければ、尚々1万軒が3か所4か所できてきたとすれば、まさにソーラーパネル、プラスアルファがあれば大きな革命が起きるのではないかと思います。

(知事)

はい。分かりました。ひとまず事務局の方から答えます。

(環境農政局長)

市町村の焼却施設。県内の市町村さんで、かなり生ごみの焼却とともに発電の機能を持っております。ただ今お話のように水分が多いものですから、発電が不安定という部分がありまして、そのための助燃材、助ける燃やす材としてチップ等が考えられると思っておりますので、今の話については、私どもとして、廃棄物の対策等も含めて今後検討させていただきたいと思っております。

(参加者)

南足柄から来ましたカラシマと申します。黒岩知事のスマートエネルギーは大変私も感動しておりまして、これをぜひ推進したいということで、地産地消のバイオエネルギー、特に私としましても、木材から電気をおこしたいという思いは非常に強くございます。

そして先ほどの、ごみ焼却でございますけれども、水分は確かに多うございまして、発電

能力としては非常に低いと言われていまして、大体1kWが2,300kcal程度で、今は自分で燃える補助燃料は必要ございません。ただキロ2,000kcal程度というので、これを材木を使う、間伐材にすると、4,000から5,000kWのエネルギーを持っております。ところがバイオ発電は現状、1日に10t程度の発電では10%程度の変換効率が得られない。ということで環境省が、ごみ発電を日に200t以上の場合に、発電効率を15%まで上げれば、その設備の半分を補助するというようなことを今盛んに進めているし、ゴミ発電の10%アップを狙っております。

そこで、バイオ発電で日に200tの焼却をしようとする、今度、山が禿山になってしまう量を燃さないで1日200tという消費はできない。ところが、例えば相模原等や横浜は日に200tの焼却設備をたくさん持っております。これは、ごみ焼却場というのは、盆暮れ等のごみの量の変動に対してピークを持っておりますから、普段はある程度低い。その部分を、間伐材を入れれば、安定した発電量が得られるのではないかと。ということで、今のスギヤマさんの言っているように安定した発電をするというのが、今までと前後しますが、ごみ焼却場では安定した発電ができないから、5円でしか買ってくれていないという現状があります。ところが安定してあれば、バイオであれば20円で売れるのではないかと。ということをご提案したいということで、ぜひこのへんをよろしくお願ひします。

(知事)

本当にありがとうございます。私も、正直申し上げてですね、いろいろな方からいろいろなアイデアをいただくんですね。それで実際、新しいエネルギー体系、今、「かながわスマートエネルギー構想」と言っていますが、いろいろな新しいアイデアをいただきました。それを今、どんどんどんどん取り入れているところですから。せつかくこのような場でいただいたアイデアですから、きちっと精査して研究してまいりたいと思っております。ありがとうございました。はい、どうぞ。

(参加者)

厚木市から来たサイトウと申します。選挙のときに黒岩さんに1票入れまして。公約知らなかったんですよ。「報道2001」に出ているあの人の。あの人の人脈も持っているし、すごいことをやってくれると思って投票しました。でも公約を知っていたら1票を入れていません。

ここに来る前に気象庁のホームページにアクセスして、ここは小田原なので、小田原の日照時間を調べてきたんです。去年の日照時間が2,004.8時間。1日あたり5.4時間。それですね、2006年ですよ。1,399.6時間。1日当たりたったの3.6時間ですよ。日照時間。これが本当に使い物になるんですか、って話ですよ。これ、蓄電したところでこんな時間ですよ。半日もないんですよ、1年を平均してしまうと。で、いつ太陽が出るかも非常に不安定。で、これを全量買取といってすごく高い金額で買いますよね。で、わっ、電気代うちに入る、と思いますよね。でも太陽が出ていない時間の使用電力にその値段が入ってくるんですよ。民主党の馬鹿な制度、あの菅が考えた。これはどういうことかということ、お金のない庶民がお金の余裕のある、ソーラーパネルを付けられる余裕のある人にお金を払うってことなんですよ。こんなことが許されていいのでしょうか。

それから最後に皆様をお願いしたいのですけれども、インターネットのYou tubeで「地球温暖化詐欺」って検索すると、出てきます。地球温暖化、二酸化炭素で温暖化しているのは嘘だ。イギリスのBBCが作ったドキュメンタリーです。イギリスのBBCっていうのは日

本でいうとNHKのような国営放送です。ちゃんと権威があります。NHKはそこから映像を買って番組を作っているにもかかわらず、一切そのことに触れていません。隠蔽しています。日本のマスコミもそうです。コペンハーゲンCOP15のときにクライメート事件というのがありました。日本のマスメディアは一切報道していません。IPCCの幹部が「今回はうまく騙せたぜ。」というそういうメールを暴露したんです、内部告発で。IPCCの人が、それ、ちょっと見ておいて欲しいんです。環境問題ってすごい利権が動いて、でもその利権が動いて皆がハッピーになればいいんですけど、庶民からお金が巻き上げられているんですよ。そのところ、皆さんちょっと知って欲しいわけですよ。ソーラーパネルもこの日照時間ですよ。少ないとき、たったの3.6時間ですよ、1日。これが本当に使いものになるのか、これに税金をたくさん入れていいのか。皆さん、なけなしのお金で買って。ソーラーバンクって何ですか、それ。

(知事)

分かりました。サーチャージというのがあるんですね、こういう新しいエネルギー体系にするために、若干皆さんの電気代が少しは高くなります。これはどのように考えるか、っていう、ものの考え方なんですけど、要するに、私がさっきから言っている、原子力発電に頼れないエネルギー体系になってきています。で、あれはどうするのか。今まで、原子力発電というのは非常にコストが安い、と言われていました。そして安心・安全だ、絶対安心・安全だって言っていましたね。でも、そうじゃないってことが分かりましたね。コストって何だって言ったときに、要するに今、あれだけの放射能汚染が起きて、この足柄まで、この足柄のお茶まで放射能の影響を受けている。今、神奈川県内でも下水処理に困っているんですよ。下水処理の焼却灰、汚泥、焼却したこの灰の中にも放射能が出てきて、どうやって処理するか。もう、処理できなくて、ドーンと溜まっているんですね。これ、全部補償しろという話にもなっている。じゃあ、原子力発電のコストっていうのは、全部合わせた形で考えていったら、ものすごく高くなるんですね。だったら、新しいエネルギー体系に移行しないで、今までどおりの原子力発電に頼っていたならば、あれだけのコストを負担するっていうことになったら、どれだけ電気代が上がっていくかってことですよ。それに比べれば早く自然エネルギーに変えていった方が、実は皆が負担するのも薄くて済むんじゃないかということなんです。

そして日照時間の問題をおっしゃいましたが、日照時間がそれだけの時間だから意味がないのか。さっき私がお話しましたが、それは皆さんご自分で考えてください。自分が嫌だと思ったらそれは使わなくても結構です。さっき言ったように一戸建てで3.3kW。ご自分の家で使った電気と残った電気を買って取ってもらっても売電収入が今は1万円あるというくらいなものなんです。だからそれは日照時間が短いと考えるか長いと考えるか。

しかし、私は何も太陽光発電だけでいきたいと思いますとは言っていない。太陽光発電でやれる、という選択肢だけはどんどん広げていくべきだと思っています。しかも、神奈川の場合には今日は深く話をしませんでしたけれども、小水力発電というのは大変な可能性があるんですね。今日実は私は午前中は丹沢の方へ、ずっと、現地視察で行ってまいりました。そしてダムとかずっと見て来ました。そこにも水力発電所がありました。神奈川は、水はとっても豊かな県なんです。そして川がいっぱいあるんですね。その川を使って、小水力発電という可能性がたくさんあるんですね。たださっき私が申し上げたとおりの3つの原則、「原子力発電に過度に依存しない」ということ、「環境に配慮していく」ということ、なるべくエ

エネルギーは「地産池消を目指していく」ということの、大きな原則の中でやれることはどんどんどんどんやっていきましょう、という話をしているということでもあります。はい、どうぞ。

(参加者)

一つだけ、送電線についてどのようにお考えか教えていただければありがたいんですけども。

(知事)

はい。今ね、メガソーラー。川崎にメガソーラーというものがあります。メガソーラーってたくさん太陽光パネルが並んでいるところですね。これ、県内他のところにも造ろうとしていて、今、選定していて、そこにドーンと造っていかうとしています。まあ、これ、あまりにもでかいと今の送電線のままじゃなかなか難しい。その工事も必要になってくるということなんです。安定するまである程度時間がかかるというふうなこともあります。ただ、それは新しい送電線を作るということのコストとそれの見合いの中で、どれがいいのかなということ、それぞれの地元の特性を合わせて考えていかうといったのが、今のイメージです。はい、どうぞ。

(参加者)

小田原市から来たコミネと申します。今のお話を聞いていて非常に共感するところと、お話を聞いていて、知事がまるで太陽光発電設置業者の営業なのかなって思ったようなところもあるんですけども、普及をさせるということに対してはまず、私としては大賛成ですね。普及をさせるということ自身は、まず第一歩だと思っていて、これではまだ半分だと思っています。

当然のことなんですけれども、付けるのが目的じゃなくて、発電し続けることが目的であるということをおまづ置いておいて欲しい。今のお話にはリスクのお話がない。将来、屋根の上の粗大ごみ、屋根の上の不良債権を作らないための対話をさせていただきたいと思って今日は来ているんですけども。ソーラーパネルは壊れます。実は私は自分の家に付けていて、10年間付けていて、今年の9月に10年を迎えたんですけども、3回ほどパネルを交換しました。壊れるっていうと、動かなくなるんだ。保証が付いているじゃないか。だから保証で直せばいいじゃん、って思うじゃないですか。壊れて動かないのは単純だから直してくれるんです。でも、仕組上、出力が半分になってしまうような状態。これ、お天気任せなんで、壊れているのか、ちゃんと動いていないのかが分からないんです。ちなみに県も、国も、市も今まで設置のために補助金を出していたんですけども、その補助金で何kWh発電したいと思っていましたかっていうことを、もしできたら、後でお答えいただきたいんですけども。要するに、何戸付けるかとか、何kW付けるかではなくて、何kWh、長く発電し続けられるかって、そういうスキームがないとですね、さっき言ったような、ローンまで組んでやってしまうとですね、あたかも屋根の上の不良債権になってしまうのではないかという恐れがあります。

で、私としては提案というか、太陽光発電自身のデータをしっかり見ながらやっていかないと、実は設置業者さんでもメーカーさんでも、私の発電所が昨日何kWh発電したか分からないんですよ、今。私の家が見るしかないんです。将来スマートメーターが付けばいいんで

す。でもスマートメーター付けるには時間がかかって。今付けた人達は、自分の家で自分の発電量を管理しない限り、適切に発電しているかが分からないんです。なので、そういったことをちゃんと管理して将来にわたって発電し続けるようなスキームを作って欲しいんです。例えばですね、3.3kWの家を33万世帯集めたら1GWになりますよね。それって知事が言われていた6分の1の規模なんで、それをちゃんとスキームとしてデータを管理するような仕組みを作ってみたらどうですか。神奈川ギガソーラープロジェクトという形で。

付けることはどんどんやってください。さっきあった経済の話もあるので、業者さんもいるし、知事がやらなくても増えていきます。問題は付けた後にちゃんと管理できる状態を作って欲しいんです。で、そのためにデータを見ましようということをしたんですけども、実は私もずっと見ていたんですけども、長続きしないんです。同じことの繰り返しになると。実は省エネの話も、今はみんながいろいろ問題になっているから意識するんですけども、来年再来年、4%、4%と言われても省エネ続かないかもしれない。なので、私が言っている、そのまとめたスキームを作って欲しいと言っているのは、データを管理して、それが楽しくなるような、続けられるようなスキームを作ってもらえないかな、と。そのためにギガソーラープロジェクトというような名前を付けてですね、みんなデータを集めて。実はデータが集まって来るとですね、近くの発電所同士で比べると、うちはおかしいってすぐ分かるんです。で、分かったら、保証の期間の間は、業者に言えばすぐ直してくれます。でも、問題は保証って10年くらいしかないんです。その後、動かなくなったときにどうしますか。新規には補助金を出してくれるんですけど、壊れた屋根の上のパネルを交換するというのは、屋根の上に人を乗せなければいけない工事になるので、やはり何十万円もかかるんです。直すだけで。その時に補助が何も無い状況だと、こんなお金かかるんだったら、しかも固定買取制度で10年超えたらまだわからない状態であるので、経済的にメリットがないので止めようという放置されるパネルが出てくるかもしれないんです、将来。なので、そういった意味で屋根の上の粗大ごみという表現を使ったのですけれども、ぜひですね、付けることはやっていただきたい。ただ、これは第一歩です。で、これをちゃんと動く形で維持するような神奈川ギガソーラープロジェクトというのをやっていただけませんか、というのが私の提案です。

(知事)

神奈川ギガソーラープロジェクト、これは検討させていただきます。いろいろなアイデアは歓迎ですから。そんな中で、先ほど、事務局から説明させていただきましたけれども、非常に重要なことをおっしゃっているのです。エネルギーの資料7ページ、省エネの取組というところで、消費電力の「見える化」とここに表示しております。これが、まさに、これから新しい革命と私が言っている中で、これがかなり重要な要素を占めてくるということなのです。HEMS（ヘムス）という仕組みがあるのですが、自分が電力をどのくらい使ったのか、全部、それをコンピューターで管理していく。それを全体的に管理していったときに、どういうふうに電力を使えるのか、使えないのか、管理していく。省エネをどのようにしていけばいいのか、今、非常にアバウトにしかわからない。この時間帯は電力を使うピークになるのだから、なるべく、そこは使わないようにしましょうとか、非常にアバウトにしか言っていないのです。これを、コンピューターの技術をうまく合わせていくと、それがエネルギーの使用量の全体がどうなっているか、ここまで来たら皆危ないから止めていこうとか、全体で見えてきて、エネルギー全体を面としてコントロールできていく。そういう視点が目

の前まで来ていますから、これができていくとそれが効率的に使えるのではないのかなと思います。

(参加者)

「見える化」の話はいろいろなところでやっていて、「見える化」の中でお願いしたのは、知事をご存じでしょうけれど、グリーン電力証書とか、自家消費分の証書の話をやっていて、今、計量法の問題で、計量法に合致したメーターが発電機に付いていないと、ちゃんと証書が売れないという実態があって、今のスマートエネルギーの「見える化」がそれに合致するメーターがないという実態があるので、そういったことを加味して、単純に「見える化」しました、設備を付けました、で、お金を払ったんだけど、その後、有効に使えないような設備を増やすようなことは避けていただきたい。そうなってくると、業界のしがらみのようなものがあるみたいで、難しいのかもしれないですけど、なるべく、太陽光というのは、個人が付けているので、個人の人たちのためになるような、うまい仕組みというものをぜひ検討していただきたいというのがお願いします。

(知事)

いろいろな形で試行錯誤があると思うのですね。技術革新というのが、どんどん進んでいますからね。我々もどこまで把握しているのかということを追っかけなくてはいけませんから。そして、あまりにも皆さんの相談というのが、「かながわソーラーバンク」というのに感じる不安・不満だとか、問題点だとか、全部、相談窓口で集めて、どうすればいいのか試行錯誤が続くと思いますけれども、やっていきたいと考えているところです。

(参加者)

小田原市のコバヤシと申します。先ほど来のお話で、2点ほどお話したいと思います。

日照の時間が問題になります。数字のマジックでございましてと言いたい。私は、特に夏ですけれども、電気を使うピーク時をどう賄うか、電力会社は、相応の電力の発電力を持っているわけです。その時に1番のピークをどう守るかということが大事なことなのです。太陽光発電のいいところは、先ほど日照の問題がありましたが、日照のときこそ、気温が上がってエアコンを使いたいわけです。そしたら、そうでない曇りの日は、電気をそれほど使わないのですから、全く問題ない。それと、効率がどうのこうのと言うのは、全体的な問題でありますけれども、まずは、一番大事な、ピークをどう乗り越えるか、というところについての知事からのお答えがなかったので、代弁してお答えさせていただきます。

それと、冬については、非常に難しい問題です。これは、バッテリーにためて対応しようということで今動いているわけです。それで、この前、小田原の合庁でやったときに書いておきましたが、ピークの対応の一つとして、揚水発電所を造っておく。この前アンケートに答えておきましたが、アンケートの答えを、知事さん、読んで報告していただけたらと思っておりましたが、何もおっしゃらないので、私から言わせていただきますと、揚水発電所は余った電気で、上の貯水槽に水を送っておいて、ピークの時に使えるようにする。だから、冬、夜中がピークなので、それを夜中に発電すればいい。こういうことでバランスをとることができる。

それからもう一つ、別の方でしたが、パネルの寿命について問題視されました。私は、パネルというのは、10年以上何十年もつと宣伝を受けております。これはどこのメーカー、ど

のパネルが教えていただきたい。そんなメーカーのものは買いたくないと思います。現在、だんだんいいパネルができてきているようになって、太陽光を受けて変換効率もどんどん上がっております。私が会社を卒業する十数年前は、11～12%が変換効率の限度でした。それが今は17から、さらにどんどん上がって行きまして、一説によりますと、60～70%の変換効率を持つものが、今開発されて試験段階に入っている。あと、何年か出てくる。ものすごくいいパネルができてくるという可能性があります。こうなったら徹底的に太陽光発電を利用していくべきだと思っております。

(知事)

非常に貴重なご指摘だと思います。ピーク時の電力というのは、ピークの時、そこで足りなくなったら、一気に停電になってしまうわけで、たくさん使う時間帯とあまり使わない時間帯とがある。そのピークのところをどのように守るかということが一番大事なところなのですよね。その時、今、まさにご紹介いただいたのですけれども、神奈川というのは、すごい発電所を持っているのです。揚水発電所、今、おっしゃいました。これは丹沢の山の中に2つの湖があります。これは高低差がありまして、夜間に下の湖の水を上をダースと上げて行って上にたまっているのです。それで、ピークを突破しそうだというときにどっと上から落とす。そしたら圧倒的な水がダースと降りていく。それによって水力で、発電をピーク時を賄っていく。これはもう既にあるのですね。今は、あんな大規模な揚水発電所は造れないですよ。それは、今、造ろうと思うと自然破壊だとか、そんな大規模な公共工事は何だとか、大反対にあってできないと思いますけれども、この神奈川の先進性というのがあるのですね。こういう思いで見ると、そんな揚水発電というのが実はある。そういうのが皆さんの安全・安心を守っているということがあるのです。

(参加者)

箱根町のフクオカと申します。先週の土曜日と水曜日に、それぞれ、土曜日は合同庁舎と水曜日は桜木町で話を伺いました。実は、箱根で旅館に携わっておりまして、冒頭、知事がおっしゃったように、震災直後は、お客様がいなくなり、見たことがないような状況でした。そんな中で、レジャー産業が、社会的に何かできないかということで、20代・30代の自分達の連中で、何かできないか、宿泊業が何かもっと社会貢献できないかということで、話をしています。その中で、今の「スマートエネルギー構想」で、温泉旅館が連携して、何か保養みたいなものに使えないかと思っております、仮に、エネルギーに、どのようなものがあるか把握できていないのですけれども、自発的なものが仮に可能であるならば、例えば、震災時に旅館を避難所として使ってもらえることもできると思いますし、平時であれば、少なくとも光熱費の分は安く利用いただけるものではないかというふうに思いまして、それを今、箱根の地から何か発信できないかと思っております、知事は、神奈川県の魅力ということでマグネット神奈川を推奨しておいでなので、その一端として何か、今、箱根の地から発信できないかと強く思って、今回発言させていただきました。

(知事)

発電の方法の一つに、地熱発電というものがある。地熱を活用して、電気を発電させるという方法がある。当初は、私は、箱根がいいのではないかと思っておりました。ところが、箱根の皆さんは抵抗感がある。地熱を使うと、それによって温泉の熱が下がってしまうのでは

ないかと心配している。そういう心配の中で、地元が嫌と言っている中で、やるわけにはいかない。そういうところ、また、新しいアイデアをいただきました。温泉熱を使った発電というものがある。温泉というのは、お風呂が入っているときに温かければいいので、温泉が湧き出すところの熱を、うまく利用して、これによって電気を起こすということもある。箱根町で、そういうことをやっていただければ、温泉の熱を使った発電で、うまくすれば、太陽光とうまく組み合わせれば、蓄電池もあって、独立型の温泉旅館ですということで、すごく売りになる。そういうことはあり得るのかなと思っている。

いろいろありますよ。例えば、製鉄所の溶鉱炉があるが、私も見に行きましたけれど、その中で、煮えたぎった鉄が流れて行きます。それは、ものすごい温度ですよ。あの温度を使って発電しようといった実験をしている。ありとあらゆるエネルギーの話がどんどん出ている。できるものをどんどんやっていきたいなと思っている。総合的に1個のものに特化してしまうと、リスクが生じてしまう。いろいろな可能性をどんどんやっていこうかなと思っています。

(参加者)

恐れ入ります。平塚から参りましたマツザキと申します。ボランティアで再生可能エネルギー普及のお手伝いをさせていただいております。黒岩知事の選挙運動期間中にドイツ連邦政府の友人から受け取りましたメールを転送させていただいた者です。

今日は、黒岩知事から、「かながわスマートエネルギー構想」実現に向けて、非常に分かりやすく、明瞭なご説明をいただき、ありがとうございました。選挙運動期間中も、それから知事に就任された後も、黒岩知事は非常に強い発信力、メッセージ力をお持ちだと思います。ですからそれを今後もぜひ発揮されて、エネルギー革命を推進していただきたいと思っております。

今日はこのエネルギー革命推進に向けて、当面、特に実現していただきたいことがありまして、それをお伝えさせていただきます。

それは、今、神奈川県は、国に、中央政府に向けて、神奈川グリーンイノベーション特区の認可申請をされていると思うのですが、ぜひこの認可を獲得していただいて、エネルギー革命を加速していただきたいと思っております。と言いますのも、グリーンイノベーション特区が認可されれば、神奈川県で、先ほど知事のお話の中にありました再生可能エネルギー法では、住宅用では残念ながら余剰買取にとどまっていますけれども、もし仮にグリーンイノベーション特区の認可が獲得できれば、神奈川県内で住宅用に全量買取制度を適用することも可能になってきます。しかも、固定価格買取期間を10年から20年に延長することも可能になる可能性が出てくる。エネルギー革命を推進する上で、非常に大きな力になると思います。

それを実現するに当たって、認可を獲得するに当たって、いろいろな方法があると思うんですけども、2つだけご提案させていただきます。

1つ目は、先ほどの知事のお話にもありました、自然エネルギー協議会、これをぜひ活用していただいて、横の連携、他の県の皆さんと、他の県とぜひ協力していただいて、中央政府に対して、神奈川県に特区の認可を与えるよう強い要請をしていただきたいと思っております。もし仮に神奈川県が特区を獲得できれば、他の県にとっても非常に強い励みになります。他の県からも、では次はうちも、次はうちもと、次から次へと特区申請の強い動きが出てくる可能性があります。ですから、神奈川県が先陣を切って先頭を走って、必ず特区の認

可を獲得していただきたい。自然エネルギー協議会の活用、これが1つ目の方法です。

また、2つ目の方法のご提案としては、ぜひ署名活動を実施していただきたいというふうに思っています。署名活動をして、多くの署名を集めていただいて、中央政府に対して要請をしていく。署名を集めるのは、神奈川県民の皆さんから署名を集めるのはもちろんなのですけれども、是非、神奈川県民の皆さんにとどまらず、全国民の皆さんから署名を集めていただきたい。と申しますのも、神奈川県がエネルギー革命を進めることは、神奈川県民だけではなくて、全国民の皆さんにとって非常に大きなプラスになるんですね。再生可能エネルギーへの転換を進める上で、神奈川県民の果たす役割はすごく大きいのです。したがって、署名活動を実施するに当たっては、神奈川県民の皆さんだけでなく、全国民から署名を集めていただきたい。そのためには紙の署名だけでなく、最近は電子署名という方法があります。アメリカとかでも電子署名を活用して、非常に大きな市民の皆さん、国民の皆さんの声が地方政府、中央政府に届きます。ですから、電子署名を使っていただいて、インターネットを通じて多くの署名を集めていただく。そして集まった署名を中央政府、それからマスコミですね、マスコミにぜひ伝えてもらって、「これだけ多くの支持があるのだ。ぜひ認可を獲得させろ。」という強い要請をしていただきたいと思っています。

最後に一言付け加えさせていただきますと、本日この対話集會に参加させていただき、私、非常に興奮しました。県民の皆様から、非常に様々な力強いご意見とか、知事を応援する言葉、様々なアイデア、厳しい意見、1つ1つの意見が非常に貴重だと思います。

ですから、「かながわスマートエネルギー構想」を進めるに当たっては、専門家の皆さんだけの議論をするのではなくて、ぜひ、県民の皆さんの声を聞いていただいて、それが黒岩知事自身も非常に大きな力になると思います。それが逆にまた県民の皆さんにとっても励みになって、大きなうねり、大きな流れを作っていくと思います。選挙運動期間中のあの大きな流れ、大きなうねりをもう一度、常に維持していただいて、そのためには対話集會を今回の3回にとどまらず、もっと定期的に多数開催していただきたく、そういうことをお願いして、私からのご提案を終わらせていただきます。

(知事)

前向きな、具体的なお提案をいただきましてありがとうございます。

グリーンイノベーションの特区申請というのを今しているんですね、ご指摘のとおり。これは神奈川県全体を、グリーンイノベーション、環境配慮型のそういうふうな特別な区にしてくれということでもあります。今おっしゃったとおり、さっき言った再生可能エネルギー法案は通ったんだけど、一戸建ては余剰電力買取のままだった、全量買取の対象から外されてしまったということ、これも一戸建ても全量買取としてくれという中身もちゃんと入っています。よくご存知ですね。

そういうようなことをして、それからまたエネルギー関係の産業というものをどんどんどんどん集積をしていきたいと思っています。私はそのエネルギー革命を起こすのだということは、ただ単なる革命、エネルギーの体系を変えるというだけではなくて、これによって、神奈川県民の経済を回していきたい。これを経済活性化のエンジンにしたいと実は思っています。そして私が大きな声で言うと、きっと神奈川に行けば、新しいエネルギーの仕事がいっぱいできるのではないだろうか、それは外国もそうです。

この間、ワシントンDC、メリーランドに行って、トップセールスをしてきましたけれども、「神奈川で今、エネルギー革命を起こそうとしているんですよ。だからその関連のどこ

ろはどんどん来てください。」みたいなことも言うておりますから、ここにどんどん集積して来ることで、流れはどんどん加速するのではないかと思います。そのためにも特区が出来上がると、企業を呼び込むためにもいろいろ有利なことができるのではないかなどということをおっしゃっている次第でありまして、自然エネルギー協議会の活用なども「なるほど、そういうこともあるのかなあ。」と思われました。もしかしたらライバルもいるかもしれませんからね。うちの県に取ろうというところもあるかも知れない。そのへんの頃合というのものもあるかも知れませんが。

それから署名運動というのもなかなかいいですね。確かにそうだなあ。革命というのはやはり幅広い皆さんの動きがなければ革命にはならないんですよ、これは。いくら「この政策をやるのだ。」と言っても、みんなが「そうだ。」と言って動き始めなければ、革命にならないと思いますので、この流れはぜひ、ご指摘のとおり進めて、全て強力で押し進めていきたいと思っている次第であります。

「対話の広場」というのは、ずっと続けてやっております、これはエネルギー版といたしまして、エネルギー版は特別にこれに特化したのは今回3回だけです。今日は2回目です。あと1回は県庁の本庁で行います。

それ以外で、7地域をずっと回ってきました。これは、県民との「対話の広場」で、地域のマグネットの力をどう作るかをテーマとしてずっとやってきました。

県庁の本庁で定期的にやっている、ネットライブ版というのもありまして、こういう場はとても自分にとっても役に立つし、皆さんの生の声を聞かせていただいて、「ああなるほど。こういうこともあったのか。」「そういう視点もあったんだな。」「こういうことを心配されているんだ。」ということをおっしゃって帰っていますから。うちの事務局もみんなメモしていますから。これを今、ここで答えできなかったこともいっぱいあると思いますけれども、必ず持ち帰って、それを皆さんのご期待に応えられるように反映していきたいと思っています。

はい、他どうぞ。

(参加者)

平塚市のイトウと申します。私は、夢のような話ですけれども、この構想の中の「原発に過度に依存しない」と、これはこのとおり、今、皆原発が大嫌いという感じになっておりますけれども、しかし、日本はノーベル賞でも、化学賞も物理学賞もたくさんの先生方が受賞しておられるんですね。この科学立国で、原発が不幸にして千年に1度の津波でやられてしまったと、これはそう考えるとやむを得ないことだったのだと思いますけれども、大変、皆さん、今、被災地の方は悲惨な思いをされているときなので、申し上げにくいことではありますけれども、私は、原発は、科学の力というのは絶大なものだと思うのです。これまで文化をたくさん推進してきたわけですね。それから考えると、原発は、乾電池のように安全な原発装置を作ることについては、こういうふうな痛めつけられましたけれども、まだ夢を捨てないで頑張ってもらいたい。したがって、知事さんも当面は構想をお進めになりながら、科学の力、日本の世界的に優れた科学の力も信頼していただきまして、そういうことも進めたいとこういうことを私の夢として聞いていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

(知事)

ありがとうございます。この問題は、私が「こうやるのだ。」と言っても皆さんがそういうことをどう考えられるかということです。

原発をやらないのだと言ったときに、原発を開発してきた技術もあるわけですからね。それを全部捨ててしまっているのかという指摘も当然あるでしょうけど、じゃあ、我々が原発を受け入れることができるのかどうかということは、ここは乗り越えないといけない大きな大きなハードルだと思います。これはみんなで考えていきましょう、これから。

じゃあ、最後の質問、どうぞ。

(参加者)

中井町の株式会社カトーのオオツカと申します。高いレベルの意見ばかりの中、一番最後にレベルの低いお願いをしたいと思うんですけれども、今、お話を伺ったように、この対話はまだこれから続けていかれるというお話なので、その中でのお願いなのですが、もちろん温暖化がCO₂のせいかどうかというお話も先ほどありましたけれども、一因であるだろうなどは思いますし、原発がこういうふうになった現状、どうしてもやはり1日3.5時間の日照だろうとなんだらうと、ソーラーを付けて、再生可能なエネルギーも少しずつ生み出していかなくてはならないとは思いますが。

一応、そのような意識の中で仕事をしてはいますが、現実には近々、いろいろなところにソーラーをやりましょうよ。しいては、CO₂削減という大きな目標のために、商売だけではなくてということでご案内をするのですけれど、最近、末端の方で、ここに出てくるような知識も自分で集めるし、勉強もされるような方達はそんなことはないと思いますが、我々が実際に行く地域の住民の方々は、「もう少し待っていると、県がタダでソーラーを付けてくれるようになるから、自分がお金を出してもう付ける必要はないじゃないか。」という答えをされるところがとても多くて。多分、今、知事のお話を聞けば、こういう仕組みなのだというお話をしますが、我々業者が言うと、付けさせるためにうまいことを言っているのではないかな話でどうしても疑われてしまうので、発信元と着信元の問題もありますが、ぜひこういう対話の場面で、知事からも仕組みをもう少し皆さんに言ってもらって、もう一つは敢えてお願いができれば、皆もやってもらうことをタダでなんて虫の良いことばかりを考えないで、意識を、地球のため、日本のため、未来のために向けてもらう。自分から付けようという意識を持ってもらい、やってもらうことも必要ですけれども、自分でやることも必要だということをぜひ知事の言葉で皆に伝えていただけると大変助かります。よろしく願いいたします。

(知事)

ありがとうございます。

なるべく分かりやすく、伝えているつもりなのですが。さっきのご指摘にもあったとおりでしょうけどね。「かながわソーラーバンク」が出来上がればタダで付けられるというふうな解釈をされてしまったということは、私は本当に、そこは残念だったなと思っていますし、ご迷惑をおかけした点があったと思います。そこは心からお詫びしたいと思います。

そのようなつもりではなかったのですが、やはりどうしてもそういう解釈をされてしまう。だから、早く付けてくれ、付けてくれと何度も言ったんですが。

今付けても損はしません、と言う話をしていの中で、今、我々が検討しているのは、早めに付けてくださった方に対して、グリーン電力証書という、さっきもありましたけれども

「省エネ」に貢献した部分を証書という形でお返ししていきたいということをアイデアとして考えています。ですから、早く付けた人は決して損はしないと言ったことは、そういった形でその言葉には責任を持っていこうと思っているところでもあります。

今、一番皆さんが、そうか、早く付けた方がいいのだと思うのは、これだけは間違いないです。補助金はいつまでも続きませんから。今なら補助金が使えますから。これは本当です。

ただ、先ほど言ったように、これから「市民ファンド」というのも作っていきますから、その後の方にも決してご迷惑をかけないようにはしているということでもあります。

今日は2時間たっぷりとお話をさせていただきました。今日は皆さん、本当に大変意識の高い方にたくさん来ていただきまして、十分にお答えできなかった部分もありました。でも、先ほども申し上げましたように、いただいたお声というものは、必ずちゃんとお答えできるように受け止めて、このエネルギー政策をさらにブラッシュアップして、どこにも負けない神奈川のエネルギー革命を推進していくためにがんばっていきたいと思います。

今日は本当に長い時間、お付き合いいただきましてありがとうございました。